

館林市史発刊 20 周年記念シンポジウム

「未来へつなぐ館林市史～伝えていきたい「推し」の人物～」

の開催について



<概要>

文化振興課市史編さんセンターでは、この度、館林市史発刊 20 周年を記念して、シンポジウム「未来へつなぐ館林市史～伝えていきたい「推し」の人物～」を開催いたします。

令和 6 年は、『館林市史』の第 1 巻として『館林市史特別編第 1 巻－館林とツツジ－』が発刊されてから 20 周年をとりまします。『館林市史』はこれまで、別巻を含め 21 巻を発行し、さらに市制施行 70 周年として『館林市史別巻－館林歴史人物事典－』を令和 6 年 6 月に発刊しました。こうしたことから、これまでの市史編さん事業の成果と『館林市史別巻－館林歴史人物事典－』の活用を踏まえ、かつ将来にわたってそれらを継承していけるように、市内高校生も登壇するシンポジウムを開催し、市史のさらなる普及と継承を図ります。

<開催期日等>

■期日:令和6年12月7日(土) 13:30～16:00 (開場 13:00)

■会場:館林市文化会館小ホール(〒374-0018 群馬県館林市城町 3-1)

■参加者定員:300 名(事前申込不要)

<内容>

(1)発表「伝えていきたい「推し」の人物」

『館林市史別巻 館林歴史人物事典』に掲載された館林の歴史上の人物について、市内 3 校の高校生が、後世に伝えていきたい「推し」の人物を発表します。

■発表者:群馬県立館林高校 3名/群馬県立館林女子高校 4名/関東学園大学附属高校 2名
(合計9名)

■発表する歴史人物:平 将門・楠木正成・榊原氏・吉田松陰・田中正造・高野辰之・松平濱子・遠藤仁之輔・上皇后美智子さま

(2)コメント「それぞれの時代の歴史人物」

高校生の発表を受けて、『館林市史別巻 館林歴史人物事典』を執筆した立場から、古代・中世・近世・近現代の時代ごとに、人物から見た館林の歴史について簡単に説明します。

■報告者:市史編さん原始古代部会専門委員 前澤和之先生(群馬県地域文化研究協議会会長)
市史編さん中世部会調査員 須藤 聡先生(群馬県立文書館古文書係長)
市史編さん近世部会専門委員 佐藤孝之先生(東京大学名誉教授)
市史編さん近現代部会専門委員 青木哲夫先生((公財)政治経済研究所主任研究員)

(3)トークセッション「高校生の疑問－館林の歴史の謎－」

(1)と(2)に登壇した高校生と館林市史専門委員等が、館林の歴史人物や歴史についての質疑応答などを通して、歴史を未来につなぐためのトークをします。

12/7(土)
13時30分～16時

日本遺産
JAPAN HERITAGE

館林
里沼

参加無料

令和6年度 館林市史発刊20周年記念シンポジウム

未来へつなぐ館林市史

～伝えていきたい「推し」の人物～

館林市史の発刊開始から、令和6年で20周年を迎えます。これまで通史編、資料編、特別編、別巻など20巻以上を出し、6月には『市制施行70周年記念 館林市史別巻－館林歴史人物事典－』を発刊しました。

こうした館林市史編さんの成果を将来にわたって継承していただけるように、館林歴史人物事典を活かして、**高校生が館林の「推し」の歴史人物を紹介するシンポジウムを開催します。**

館林市史専門委員等と高校生との質疑応答などのトークも行い、館林の歴史を若い世代と一緒に理解していきます。



- 期日：令和6年12月7日(土) 13:30～16:00 (開場13:00)
- 会場：館林市文化会館小ホール (〒374-0018群馬県館林市城町3-1)
- 参加者定員：300名(事前申込不要)
- 内容：

(1) 発表「伝えていきたい「推し」の人物」

13:35～14:30

『館林市史別巻 館林歴史人物事典』に掲載された館林の歴史上の人物について、市内3校の高校生が、後世に伝えていきたい「推し」の人物を発表します。

発表者：群馬県立館林高等学校 3名
群馬県立館林女子高等学校 4名
関東学園大学附属高等学校 2名 (合計9名)

(2) コメント「それぞれの時代の歴史人物」

14:30～15:10

高校生の発表を受けて、『館林市史別巻 館林歴史人物事典』を執筆した立場から、古代・中世・近世・近現代の時代ごとに、人物から見た館林の歴史について簡単に説明します。

報告者：市史編さん原始古代部会専門委員 前澤和之先生
市史編さん中世部会調査員 須藤 聡先生
市史編さん近世部会専門委員 佐藤孝之先生
市史編さん近現代部会専門委員 青木哲夫先生

(3) トークセッション「高校生の疑問－館林の歴史の謎－」

15:10～15:55

(1)と(2)に登壇した高校生と館林市史専門委員等が、館林の歴史人物や歴史についての質疑応答などを通して、歴史を未来につなぐためのトークをします。

主催：館林市史編さん委員会・館林市教育委員会
連絡先：館林市史編さんセンター TEL 0276-76-7651

高校生が発表する館林の歴史「推し」の人物



高校生×歴史×館林

館林市内の3校の高校生が、館林の歴史上で「推し」の人物をプレゼンします。

高校生が選んだのはこの8人・1氏。誰もが知る人物、あまり知られていない人物、館林と意外な関わりをもつ人物、さまざまな人物が選ばれました。

現代の高校生は館林のどのような活躍をした歴史人物に魅力やおもしろさを感じるのでしょうか。高校生の興味を通して、改めて館林の歴史を知り、魅力を探ります。

平将門（たいらのまさかど）

（生年未詳～940年）

平安時代中期の武将。桓武天皇の曾孫で、鎮守府将軍平良将の子。豊田・猿島地方（茨城県南西部）を本拠にした。天慶2年（939）に武蔵・常陸国の紛争に武力介入して、常陸・下野・上野国府を制圧した。上野国府で巫女の託宣により新皇を名乗り、猿島に新たな京を置くことを表明したが、翌年に猿島で藤原秀郷・平貞盛に襲われて敗死した。

楠木正成（くすのきまさしげ）

（生年未詳～1336）

中世武士。鎌倉幕府倒幕で活躍したが、延元元年（1336）摂津国湊川（兵庫県神戸市）で足利尊氏に敗れ自害した。館林市内には、このとき正成の遺臣がその首を塩漬けにして落ち延び、1年半後に館林にたどりついて埋葬したという伝説があり、館林市楠町にある楠木神社は正成を埋葬した場所に建てられた小祠が始まりと伝わる。

榊原氏（さかきばらし）

中世から続く武家。清和源氏仁木氏の流れをくみ、戦国時代前期に伊勢国一志郡榊原村（三重県津市）を本拠として榊原姓を名乗った。後に三河国に移り松平家に仕えた。戦国時代後期の榊原康政は、徳川家康に仕えて数々の戦で活躍し、初代館林藩主となった。その孫の忠次まで館林藩主を務め、その後、白河藩、姫路藩、村上藩、高田藩主を歴任し、幕末には新政府軍側に協力して明治維新を迎えた。

吉田松陰（よしだしょういん）

（1830～1859）

思想家。長州藩士の家に生まれ、兵学を修めたのちに長崎や江戸、東北地方を遊学した。この遊学中に館林を訪れており、同じ兵法を極めていた館林藩士三科文治郎に面会を求めたが、三科が不在だったために面会は叶わなかった。後に松下村塾を開き、攘夷を目指す志士を多く指導したが、安政6年（1859）に安政の大獄で刑死した。

田中正造（たなかしょうぞう）

（1841～1913）

政治家・社会運動家。小中村（佐野市）の名主の家に生まれる。民権運動を志して栃木県会議員となり、明治23年（1890）に衆議院議員となった。明治20年代に表面化した足尾銅山鉱毒事件には生涯を通して立ち向かった。解決されないことに絶望して明治34年（1901）に議員辞職したが、その後も被害民に寄り添い、大正2年（1913）に没するまで活動し続けた。

松平濱子（まつだいらはまこ）

（1881～1967）

関東学園創設者。伊与久村（伊勢崎市）に生まれる。明治34年（1891）に日本女子大学第一期生となり、国文学部で学んだ。その後も学問を続け、大正13年（1924）には東京で関東高等女学校を創設するが、戦災で校舎を失った。昭和21年（1946）に多々良村成島の旧陸軍飛行学校跡で関東女子専門学校を開校し、同校は後に関東短期大学となった。

高野辰之（たかのたつゆき）

（1876～1947）

国文学者・作詞家。長野県で生まれ、東京帝国大学で国文学を学び、文部省吏員を経て、東京音楽学校や大正大学などで教授となった。唱歌の作詞も多くてがけ、「故郷」「朧月夜」「春がきた」などが有名。長野県や関東近郊を中心に100校近くで校歌を作詞した。館林市内では館林高等女学校（現館林女子高）の校歌を作詞している。

遠藤仁之輔（えんどうじんのすけ）

（1901～1984）

初代館林市長。海老瀬村（板倉町）の鉱毒事件反対活動家の家に生まれる。昭和20年（1945）3月に館林町長となった。昭和29年、8町村合併により誕生した館林市の初代市長となり、上水道・下水道整備、城沼などの環境対策、区画整理、土地改良、館林インターチェンジ誘致、市庁舎建設などを進めた。昭和49年には館林市名誉市民となった。

上皇后美智子さま（じょうこうごうみちこさま）

（1934～）

上皇后。日清製粉株式会社の創業家である正田家に生まれ、昭和34年（1959）4月10日に皇太子明仁親王（現上皇）とご成婚された。ご成婚は館林でも大きな盛り上がりとなった。ご成婚発表時には、疎開時に通っていた南小学校（現第二小学校）での旗行列などが催され、さらにご成婚当日には市全体を挙げて夜中まで祝賀された。